



廿日市市教委だより

令和3年
11月24日
第8号



～ 子どもたちの笑顔を守るのはわたしたち ～

秋の行楽シーズンを迎え、紅葉の美しい季節となりました。ところで、なぜ「紅葉狩り」と言うのでしょうか？奈良時代から室町時代、貴族が美しい紅葉を鑑賞しながら宴を催し、和歌を詠むなどして楽しんだようです。昔の貴族にとって、歩くという行為はあまり上品ではないと認識されていたため、紅葉の鑑賞に出向くことを狩りに見立て「紅葉を狩りにいく」と表現したことが由来とされています。



今回は、「学校給食における食物アレルギー対応」と「今後の取組をよりよくするためのアンケート結果（つなプロ編）」について紹介します。

令和4年4月から廿日市学校給食センターで卵除去食の提供を開始します

廿日市学校給食センターでは、今年度の改修工事により食物アレルギー専用調理室を新たに設置し、令和4年度から廿日市地域の小・中学校を対象に卵除去食を提供するための準備を行っています。

卵除去食の提供が可能になると、従来、卵アレルギーにより給食が食べられなかった児童生徒が、申請により、卵の入っていない給食を食べることができるようになります。



本市の状況（R3.5月時点）

食物アレルギーを有する児童生徒	小学校 522人	中学校 289人
	(8.1%)	(10.4%)
卵アレルギーを有する児童生徒	小学校 168人	中学校 51人
アナフィラキシーのある児童生徒	小学校 44人	中学校 11人
エピペンを持参している児童生徒	小学校 20人	中学校 6人

「学校給食における食物アレルギーの対応方針（令和3年10月改定）」

令和2年3月に公益財団法人日本学校保健会が発行した、「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン」が改訂されたことを受け、平成30年4月に定めた本市の「学校給食における食物アレルギーの対応方針」を改定しました。

すべての児童生徒が給食時間を安全に、楽しんで過ごすために、安全性を最優先とし、関係者が一体となって確実な食物アレルギー対応に取り組ましましょう。

食物アレルギー研修会開催のお知らせ

と き：令和3年11月26日（金）
と ころ：廿日市市民活動センター
※詳細は通知をご確認ください。

「今後の取組をよりよくするためのアンケート」の結果より ～つなプロ編～

市教育委員会では、今後の施策検討に向けて必要な改善や見直しを図るため、市内小・中学校の先生方を対象に「今後の取組をよりよくするためのアンケート」を実施しました。つながり支援プロジェクトに関する設問と結果は次の表の通りです。

つながり支援プロジェクト	どのような指導場面で、自己有用感の育成を意識していますか？ (複数回答可)	授業	78.5%
		学級での生活	71.7%
		行事	66.7%
		部活動	20.4%
		あまり意識していない	5.6%



本市がつながり支援プロジェクトを導入して7年目になります。当初は学校行事や特別活動といった場面での実践が多かった印象でしたが、今回の調査により、教科の授業や学級での生活にも積極的に意図して取り入れている先生方が増えていることが分かりました。令和3年度に本市が目指す「つながり支援プロジェクトの日常化」が進んでいると考えています。本市児童生徒の自己有用感がプロジェクト導入以降飛躍的に向上しているのは、先生方の実践の積み重ねの賜物です。

令和4年度に向けて、プロジェクトの日常化を更に加速させるとともに、プロジェクトが先生方のみならず子ども達や保護者・地域の方々にまで浸透し、本市教育の大きな特色として根付いていくよう、誰もがプロジェクトの意義を理解するとともに実践の継続に努めていきたいと思います。

目指せ！日本一の図書室！

11月2日（火）、図書室リニューアルに係って寄付をしてくださっている企業の方が平良小学校を訪問され、図書室の見学を行いました。

図書委員会の委員長、副委員長が代表として、企業の方に感謝の気持ちを伝えました。



皆でアイデアを出し合いながら様々な工夫をしました。

平良小の皆が「図書室が大好き」と思えるように、図書委員としてがんばります！



図書室リニューアルのオープンを待ちわびている子ども達。寄付をしてくださった方の願いでもある子ども達の笑顔があらわれる図書室の完成を楽しみにしています！

特別支援教育の視点に基づいた学習指導と生徒指導

11月1日（月）に子どもつながり支援員等研修会（第2回）を開催しました。

今回は、「子どもの理解と効果的な支援」をテーマとして、廿日市市教育委員会の花本特別支援教育アドバイザーによる講話を行いました。

発達に課題をもつ子どもへの接し方

- ・構造化…見通しや手順を具体的に示す
- ・ポジティブに…否定的な表現ではなく肯定的に伝える
- ・共感的に…特性に寄り添う、特性を利用
- ・穏やかに…褒めて意欲を引き出す、失敗してから言わない 【研修資料より】

声かけの変換

- ・「静かにしなさい」
→「声のボリュームを2にしてね」（具体的な量）
- ・「早くしなさい」
→「早く終わらせたならあと5分遊べるよ」（メリット）
- ・「そんなこと言ったらだめ」
→「そうか…嫌な気持ちになっているんだね」（共感） 【研修資料より】

行動の背景が違えば支援の仕方も変わります。それぞれの子どもの特性を理解して関わっていくことができるよう、学校内でしっかり共有していただきたいと思います。



ICT活用への道

タブレットをこうして活用しています！番外編

11月9日に熊本市へ先進校視察に行きましたので、今回は、熊本で参観した授業についてご紹介します。

熊本市では、「自ら考え、主体的に行動する人を育むための授業改善」をICT活用の目的として、各小中学校で授業づくりが進んでいます。

小学校、中学校ともに「協働する場面での活用」が多かったです。授業では子どもたちが情報を収集したり、収集してきた情報を分析したりして、個人やグループで思考し、タブレットを使って、一つのファイルの中に、文章で表現したり、写真を撮って資料として添付したりしていました。

子どもたちがこれまで以上に思考する授業の展開、その中にICTが溶け込んでいるという印象です。子どもたちのいきいきした姿を参観させていただきました。

【実践例】小学校6年生の授業「江戸幕府と政治の安定」

課題：江戸幕府の政策で一番効果があったのはどれ？

右の図のように、各グループのスライドには、「効果なし」「効果あり」の天秤と江戸時代に行われていた政策が1枚ずつカードで添付されています。図にはできませんでしたが、カードには政策の説明と写真等の画像も付けられていました。子どもたちは、グループで一つ一つの政策が効果があったのか、なかったのかについて考え、話し合っていました。

情報として足りないことがあれば、タブレットで検索してみたり、資料集等で調べてみたり、自分で必要な情報も取得していました。

この視察の内容の詳細については、今後、各種研修で情報提供していくように考えています。

熊本市

